



やまゆり

学校だより

令和5年8月28日
35号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「WEBQUを活用し、学級の安定と活性化を図る」

学校教育重点目標 「健やかな身体の育成」

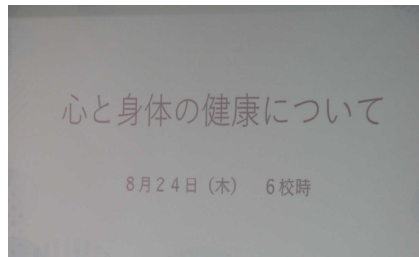
「熱中症予防」・「相談」等について宮本先生が指導をしました

8月24日(木)の6校時に、養護教諭の宮本先生が「熱中症」や「不安・悩み」等に対応するための指導をしました。山形県や北海道での熱中症の事案を受け、安心・安全な活動のための知識や技能について宮本先生の専門性を生かした指導をしました。まず、「安全管理」を教職員が行うとともに、「安全教育の指導」も行いながら、学習や若鮎祭の取組をしていきたいと思ひます。また、若鮎祭の取組みを充実させるには、「精神的な安定」が重要です。相談することの大切さや方法についても指導しました。生徒も重要さを自覚し、意見を出し合い、主体的・協働的な学習をすることができました。

養護教諭 宮本先生の指導

心と体の健康について学ぶ

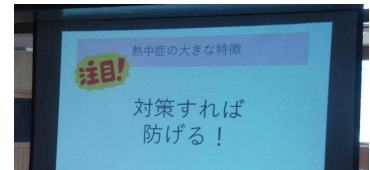
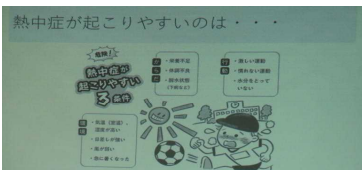
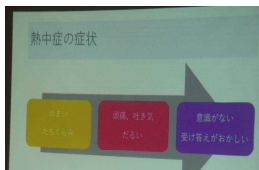
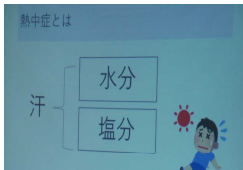
全校生徒が縦割り班で学習



熱中症予防の知識や技能の向上

疲れや食事、睡眠不足も要因

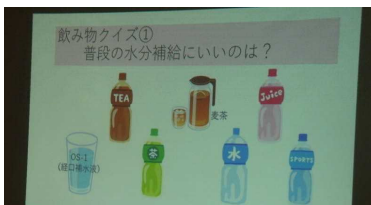
対策をして防ぐ重要性



麦茶と水が正解

主体的に参加する生徒

相談する生徒の様子

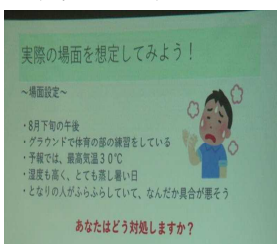


出された問い

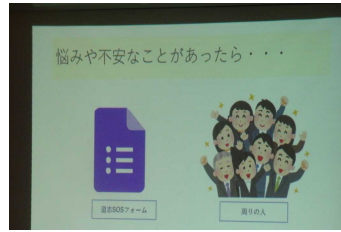
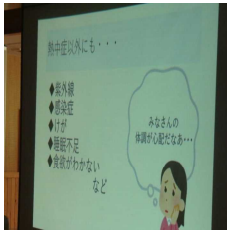
A班 協議する様子

B班 1年生二人が発表

C班 主体的な対話



- 紫外線・感染症・けが・睡眠不足・食欲不振等も、同時に対応しなければならない。



現在の中学生は、対人関係が苦手な傾向です。また、真面目で一生懸命な良さの半面、内面を表現せず、相談して改善・解決することが苦手でもあります。この学びを生かしましょう。

「熱中症」に対する対応について

- ① 活動前にWBGT(暑さ指数)の計測を必ず行い、管理職も参加して適切な活動を協議する。
- ② 上記は体育科授業・若鮎祭・部活動・行事等の教育活動に適応する。
- ③ 熱中症の危険を生徒に指導し、「自ら危険を回避する行動を取れる生徒」を育成する。
- ④ 上記の例

- ・ 熱中症は命に関わる重大な事態であること。
(令和5年7月 山形県の生徒が熱中症と思われる症状で亡くなっている)
- ・ 睡眠不足や朝食抜き、疲労の蓄積は、熱中症の危険度が高まる。
- ・ WBGT(暑さ指数)を生徒が自ら知り、危険度を把握し回避する。
- ・ 厳重警戒レベルでは、活動は20分以内とし、水分・塩分の補給を必ず行う。
- ・ 異変を感じた生徒は無理をせず、教員や生徒に申し出て、休憩を必ず取ること。
- ・ 活動終了後もクールダウンし、体調に異変がないかを確認する。
- ・ バスから降り、自宅へ向かう途中の異変は地域住民に助けを求める。

熱中症が起きやすい要因として生徒が知っているべき知識

- ・ 日差しが強い。照り返しが強い。(コンクリートの上での作業等)
 - ・ 気温が高い。(30℃以上)
 - ・ 湿度が高い。(60～70%以上)
 - ・ 風が吹いていない。又は微風。
 - ・ 過去の熱中症の重大事案は、「厳重注意・活動停止」等の暑さ指数の時に起こっている。
- ⑤ 熱中症防止のために、8月28日以降の若鮎祭準備期間・当日も夏服の涼しい服装で活動する。
 - ⑥ 暑さ指数を判断し、1・2校時に若鮎祭の活動をし、3・4・5・6校時に授業、再度若鮎祭活動等の工夫をして、熱中症を防ぐ工夫をする。※小学校と協議し、施設や活動を調整する。
 - ⑦ 熱中症が疑われたときの応急手当
 - ・ 涼しい場所への移動。
 - ・ 氷水などで体を冷やし、体温を下げる。
 - ・ 水分・塩分の補給をする。(スポーツドリンク・塩分等)
 - ・ 意識がない・症状が改善しないときは救急車を要請する。

学校教育重点目標 「生徒の良さを伸ばし、課題を克服する連携」

「PTA理事会」を開催しました

8月25日「金」の午後6時30分より、PTA理事会を行いました。山本会長をはじめ、役員の皆様には、ご協力を頂きましてありがとうございました。

当日の議題は、「①夏休みの反省、②若鮎祭・道の駅での太鼓等の発表の協力要請・③2学期のPTA活動の予定と研修」等についてでした。

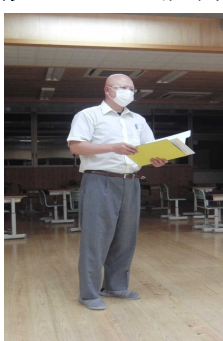
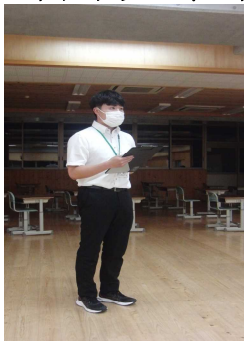
理事会終了後には、生活部会、文化部会、体育部会の3つの部会で、今後の活動の計画・実行等について協議しました。

10月の28日(土)に、PTAの関東大会が千葉県千葉市で行われます。山梨県PTA協会より山梨県代表として本校に関東大会での提案の依頼を受けています。遠方ですので、校長が代表で本校のPTA活動について発表してきます。

PTA事務局 千葉教頭 議長を務めて頂いた山本会長 生徒指導主事 三浦先生から説明



1年組谷先生、2年高村先生、3年三浦先生からの説明



各学年の様子

- 夏休みを安全に過ごせた。
- 計画を立て相談して学習した。
- 学習や部活動に努力できた。
- SNS・ゲーム依存への注意
- 他校生とのトラブル防止

生活部会 夏休み今後の生活



文化部会 キャリア講話会



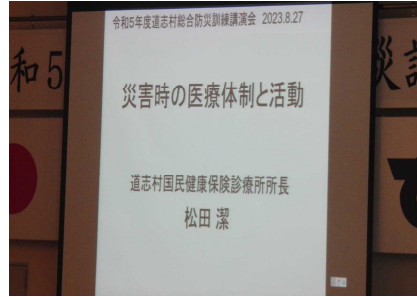
体育部会 マラソン大会協力



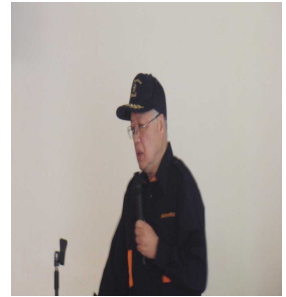
学校教育重点目標 「生徒の良さを伸ばし、課題を改善する連携」

令和5年度 「道志村総合防災訓練」が実施されました

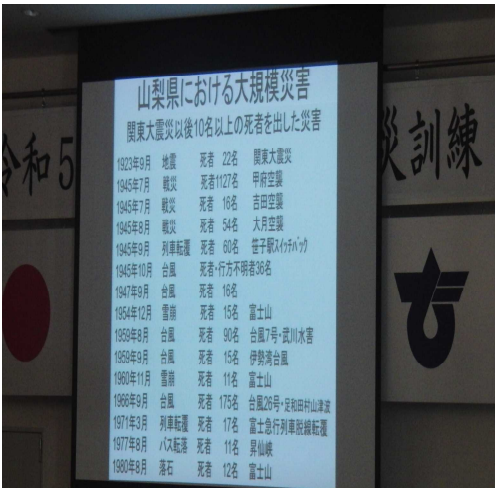
8月27日(日)に道志村総合防災訓練が行われました。今年初めて、校医の「松田先生」が開会式で「災害時の医療体制と活動」についてご講演されました。山梨県や道志村における災害リスクの高さや、備えの大切さ、市民トリアージ等について詳しく説明して頂きました。ご講演の最後には、道志中学校での生徒と民生委員さんの救急救命の取り組みについても紹介して頂きました。開会式後は、各地域で避難所の備品の点検や避難所運営等について準備をしました。



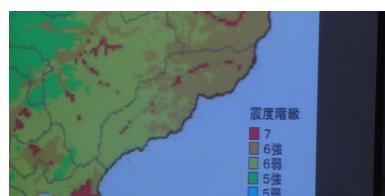
→ 校医の松田先生



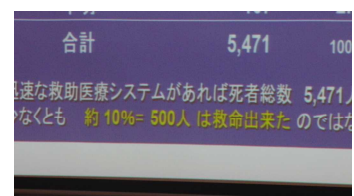
山梨県における大規模災害の歴史



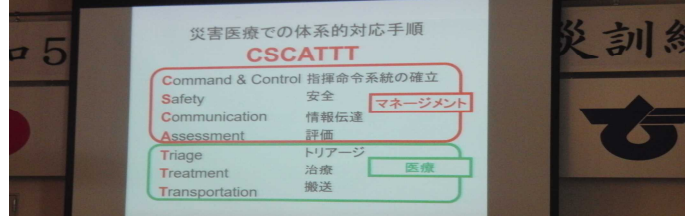
首都直下地震の被害予想



阪神淡路大震災の教訓



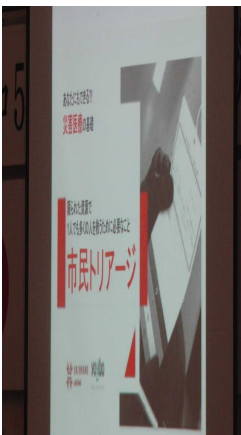
道志村の救急救命の説明 富士東部地区は課題大



市民トリアージの大切さ

目的理解と行動の重要性

市民が判断することも災害時は必要



市民トリアージの判断方法

目的 災害時の適切な救助

- 1 自力で歩ける方は「緑」→ 軽症
- 2 心肺停止「黒」→ 救うのが難
- 3 歩けない・呼吸有→遅い・早い「赤」
- 4 歩けない・通常呼吸→「黄」

開会式後は、各地域で活動 善之木地区の様子 備品チェック・簡易ベッド・避難所運営等



